



## お互いが支え合う仲間を目指して!

短かった夏休みが終わり、今日から2学期が始まります。1学期と同様、ソーシャルディスタンス、教室の換気、マスクの着用、手洗い、消毒などを行い、3つの密を徹底的に避け、基本的な感染症対策を継続する「新しい生活様式」による学校生活が再開となります。今学期も、生徒の事を最優先に考え、柔軟に対応していきたいと思っております。保護者の皆様には、様々な場面でご協力やご支援をお願いすることがあろうかとは思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

さて、生徒の皆さん、照ノ富士という力士（お相撲さん）を知っていますか？ 照ノ富士は、今年の大相撲7月場所で優勝を決めた力士です。新聞紙上には「照ノ富士、史上最大の復活優勝！ 苦難乗り越え、5年ぶり2度目の優勝」と大きな見出しが載りました。

初優勝した5年前、照ノ富士は23歳で幕内（大関）の地位で、当時、横綱昇進に最も近いとも言われていました。ところが絶頂は一転、両膝のケガ、糖尿病、肝炎、腎臓疾患などの内臓疾患も重なり、14場所で「大関」を陥落し、その後、前代未聞の幕下以下の「序二段」まで降格しました。相撲の地位は、幕内（横綱・大関・関脇・小結・前頭）を最上位に、以下十両・幕下・三段目・序二段・序ノ口 と続く6つの階層から成り立ちます。つまり、照ノ富士は、最上位の地位から下から2番目の地位まで降格したのです。

角（相撲）界では、引き際の潔さが美德とされる世界であり、まして一度、横綱や大関の待遇を味わった人間が「序二段」という地位で、相撲を取るなんて考えられず、周りから好奇の目で見られたそうです。本人も引退を親方に何度も申し入れましたが、親方から「まずは体を治せ、引退は体が治った後で考えよ」と言われ、その時は引退を踏みとどまりました。そして、一時は四股（しこ）を踏むこともできない状態から、筋力を徐々に取り戻し、プライドも何もかも全て捨てて「相撲人生を2回楽しむ」という気持ちで相撲を取り続けました。そして、28歳となった今年、両膝のケガや内臓疾患を乗り越え、序二段への降格から、史上初となる幕内への復帰を果たし、史上最大となる復活優勝につなげたのです。

なぜ、そんな状態なのに引退せず、苦しい稽古を続けることが出来たのでしょうか？

照ノ富士は、優勝後のインタビューの中で、「地位が落ちた時も応援してくれた方々、家族、親方、おかみさん、部屋のみんな・・・支えてくれる人がいたから、もう一回、恩返ししたいと思った。感謝の気持ちを忘れず、続けてきて良かった。最後にこうやって笑える日が来ると信じてやってきた。一生懸命やっていたらいいことあるな」と語りました。もちろん、照ノ富士の頑張りや、周りの人の支えになったことも、たくさんあったのだと思います。

以前、新型コロナウイルス感染症の関連で、「差別事象」が起こっているという話を学校だよりの中で紹介しました。誰しものが不安な中、誰かのせいにする事で、不安を解消するというような行為の結果、全国で差別事象が広がりを見せています。もしも、SNSなどインターネット上で拡散すれば、それは、二度と消すことが出来ません。何か不安なことがあったり、うまくいかなかったり、辛かったり、誰にでも経験があることだと思います。そんな時、皆さんを支えてくれる友達、学級や学年の仲間、保護者の方、先生方、地域の方々のことを思い出してください。どんなに辛くとも、自分には、自分を支えてくれる人がいることを、また、自分の頑張りや行動が、まわりの人たちの支えになっていることを忘れないでください。日頃から、自分の周りに困っている人がいれば支えとなり、自分が困っている時には支えてもらう、そんな支え合う関係をつくってほしいと思います。どんな理由があっても、他人を不幸にする行為を認めてはいけません。闘うべきは、人ではなくウイルスです！ 差別という見えない敵を増やしても、誰にもプラスにならない。安易な行動をとらない。他人の不幸を拡散しない。差別をしない、させない、許さない。一人ひとりが、お互いを支え合い、弱い気持ちに負けないようにしてほしいです。